

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）

分担研究報告書

「がん就労者のための症状別対応ヒント集」 版への評価コメントと追加事例の収集

研究代表者 高橋 都

国立研究開発法人国立がん研究センター

がん対策情報センターがんサバイバーシップ支援部長

研究要旨：

【目的】がん治療は種々の副作用や合併症を引き起こすが、患者が就労する際、それらの症状が作業の障害になることが少なくない。

本研究の目的は、H27年度に作成した「がん就労者のための症状別対応ヒント集」 版(以下、「ヒント集 版」と記載)に対する患者・がん体験者の評価を明らかにするとともに、修正に向けたコメントと追加体験談を収集することである。

【方法】国立がん研究センターがん対策情報センター「患者・市民パネル」登録者44名の協力を得て、ヒント集 版の評価を行うとともに、就労場面で妨げになる症状体験談の追加収集を実施した。

【結果】ヒント集 版の評価については、「がん患者にぜひ/やや紹介したい」97.7%、「就労場面での対応にとても/やや役立つ」95.5%、「がん患者のニーズにとても/やや合致している」93.2%であり、高い評価が得られた。また、ヒント集 版のタイトル、レイアウト、内容に関しても種々のコメントが得られた。

32名から追加の症状体験談が得られた。就労の妨げになる症状として選択した回答者が多かったのは、「だるさ・疲れやすさ」22名、次いで「気分の落ち込み」18名、「脱毛」「記憶力・集中力の低下」各11名、「手術部位の痛み」「ほてり・のぼせ」各8名等の順であった。

【考察】ヒント集 版はがん体験者の間で高い評価を得たが、その一方、多くの改善点も指摘された。現在、指摘された改善点や追加収集をした症状をもとにした内容改定を実施中である。

研究協力者

平岡 晃	国立がん研究センターがん対策情報センターがんサバイバーシップ支援部	外来研究員
古屋佑子	国立がん研究センターがん対策情報センターがんサバイバーシップ支援部	外来研究員
赤羽和久	名古屋第二赤十字病院乳腺外科	副部長
立石清一郎	産業医科大学 産業医実務研修センター	講師
柴田喜幸	産業医科大学 産業医実務研修センター	准教授

A．研究目的

がん治療は種々の副作用や合併症を引き起こすが、それらの症状は、患者の就労場面で種々の障害を引き起こすことが少なくない。しかし、各症状が就労場面におけるどのような作業で引き起こす具体的な困難の内容や、効果的な対応策は明らかではない。

平成 27 年度に本研究班では、国立がん研究センターがん対策情報センター「患者・市民パネル」対象のアンケート調査に加え、アンケートに協力した 17 名全員を対象とした電話またはメールによる詳細な追加取材をもとに、就労場面における具体的な困難と、それらの困難の軽減に役立つ本人の工夫や職場からの配慮を収録した「症状別対応のヒント集」版を作成した。

本研究の目的は、H27 年度に作成した「がん就労者のための症状別対応ヒント集」版（以下、「ヒント集 版」と記載）に対する患者・がん体験者の評価を明らかにするとともに、修正に向けたコメントと追加体験談を収集することである。

B．研究方法

ヒント集 版では、表 1 に示す 16 の症状について、症状解説（医療者執筆）に加えて、その症状によって仕事場面で困ったこと、自分で工夫したこと、職場の配慮で助かったこと、できればあればよかったこと、の 4 点を患者体験談からまとめて箇条書きで記載した。さらに、「周囲とのコミュニケーションに関する体験者の声」のセクションを作成し、周囲に話すタイミング、話す内容、話す相手、話すときの工夫の一般論をまとめるとともに、上司・同僚・顧客に病名や病状を伝えるヒント、自分の働き方の希望を伝えるときのコツ、社内の産業保健スタッフとの連携、主治医とのコミュニケーション、自営業者の声、の 5 点について、患者体験談を箇条書きにして紹介した。

平成 28 年度も、同年度「患者・市民パネル」の協力を得て、ヒント集 版への感想を質問するアンケート 1（資料）と、平成 28 年度に新たに「患者・市

民パネル」メンバーとなった方の場合には症状と対応を収集するアンケート 2（資料）を実施した。アンケート 2 は、平成 27 年度実施アンケートでその他の症状に挙げられたものを加えて、49 の症状について、

その症状によって仕事場面で困ったこと、症状で困った期間、困ったことに対して自分で工夫したこと、困ったことに対して職場の配慮で助かったこと、職場からもっとほしかった配慮の 5 点を質問した。

研究チームからパネルメンバーへの調査協力依頼状は、事務局からパネルメンバーメーリングリストを経由して送信された。調査チームは協力意思を示したパネルメンバーにあてて、アンケート 1（平成 28 年度からのパネル参加の場合はアンケート 2 も）を個別に送信した。調査協力者は、メールかファックスのいずれかでアンケートを事務局に返信した。

< 倫理面への配慮 >

「患者・市民パネル」への調査協力を依頼する際は、国立がん研究センターがん対策情報センター「患者・市民パネル」パネル事務局に研究計画書を提出して承認を得た。また、調査協力依頼状には研究協力は任意であることを明記し、協力意思のある者は直接研究チームに連絡することとした。アンケート 2 の末尾で、「いただいたコメントの内容によっては、個別により詳しいお話を伺う場合がございます。追加取材にご協力いただけますでしょうか？」と質問し、追加取材への協力意思がある場合は、氏名・電話番号・メールアドレスを明記するよう依頼した。アンケート調査協力者から提示された連絡先情報は、電子媒体に記録し、部内の鍵がかかるロッカーに保管した。

C．研究結果

パネルメンバー 100 名のうち、調査に参加意思を示した 51 名にアンケートを送信し、44 名から返信を得た。

- 1 ヒント集 版への感想
がん患者に紹介したい程度

ぜひ紹介したい 32 名 (72.7%)、やや紹介したい 11 名 (25.0%)、どちらでもない 1 名 (2.3%)、あまり紹介したくない、全然紹介したくないは 0 名であった。

就労場面での対応に役立つ程度

とても役に立つ 20 名 (45.5%)、やや役に立つ 22 名 (50.0%)、どちらでもない 1 名 (2.3%)、あまり役に立たない 1 名 (2.3%)、全然役に立たない 0 名であった。

がん患者のニーズ合致度

とても合致している 21 名 (47.7%)、やや合致している 20 名 (45.5%)、どちらでもない 1 名 (2.3%)、あまり合致していない 2 名 (4.5%)、全然合致していない 0 名であった。

改善点 (自由記述)

全体的な改善点としては、タイトル (想定読者を示す、前向きなタイトルにする等)、レイアウト (文字が多い、イラストが欲しい、色使いを検討してほしい等)、内容 (体験談を寄せた人や職場の背景が知りたい、事例が少ない、専門家のアドバイスもあると良い、内容の記述が物足りない等) 等の意見が寄せられた。

2 症状体験談の追加収集

32 名がアンケート 2 に回答した。図 1 に、就労時に妨げになった症状選択者数を示す。49 症状のうち、選択者がもっとも多かったのは「だるさ・疲れやすさ」22 名、次いで「気分の落ち込み」18 名、「脱毛」「記憶力・集中力の低下」各 11 名、「手術部位の痛み」「ほてり・のぼせ」各 8 名等の順であった。

その他の症状として、「幻肢痛」「重いものが持てない」「末梢神経障害」「ダンピング症候群」「舌のしびれ」「ばね指」「激しい便秘」「筋力低下」が挙げられた。

D . 考察

患者・市民パネルメンバー 44 名の協力を得てヒント集 版への評価を行った。同 32 名を対象として、追加症状の収集を実施した。

ヒント集 版の評価については、「がん患者にぜひ/やや紹介したい」97.7%、「就労場面での対応にとても/やや役立つ」95.5%、「がん患者のニーズにとても/やや合致している」93.2%であり、高い評価が得られた。その一方、多くの改善点も指摘された。

現在、指摘された改善点や追加収集をした症状をもとにした内容改定を実施中である。

E . 結論

患者・市民パネルメンバー 44 名の協力を得てヒント集 版への評価を行った。同 32 名を対象として、追加症状の収集を実施した。その内容を活かして正式版を公開予定である。

F . 研究発表

なし

G . 知的財産権の出願・登録状況

なし

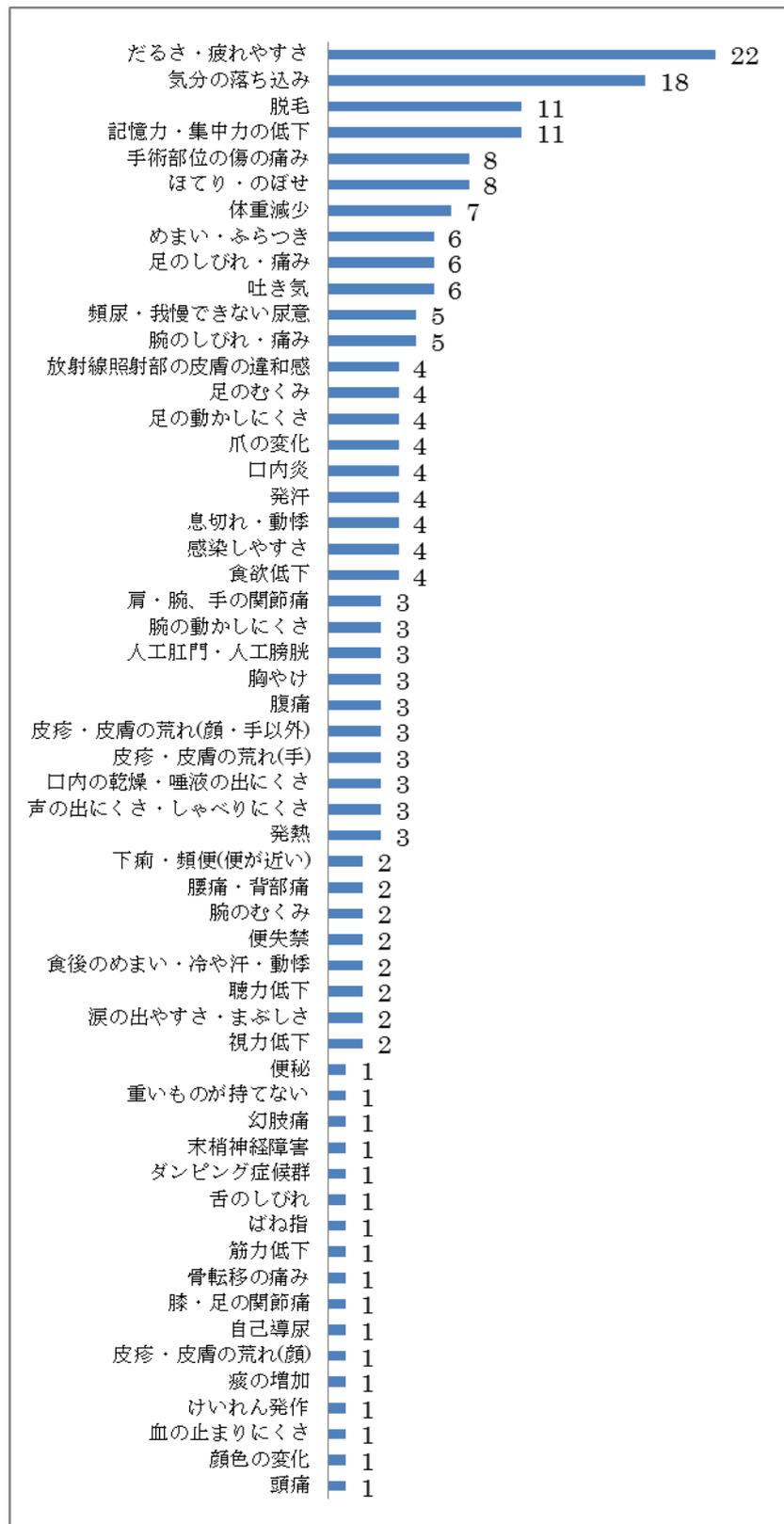


図1 アンケート2 就労時に妨げになった症状別選択者数 (N=32)